

事業NO.	701	事業名	導水管取替工事①	《重点管理事業》	水道部
-------	-----	-----	----------	----------	-----

評価対象事業名	導水管取替工事			部課名	水道部 工務課					
基本計画掲載	あり	○	なし	係名	工務係	内線	3436			
計画事業名	経年管の解消			歳出科目	款	1.受託水道事業費	項	1.水道管理費	目	1.浄水費
関連計画	水道法・東京都給水条例・同条例施行規則			補助区分	国	都	○	市単独		

事業の目的・概要 目的は対象(何を、誰を対象に)と意図(対象をどう状態にしたいのか)を、概要は実施手法、手順等を記入

目的  
現在、水源井から浄水所まで原水をつぶす導水管には、耐震強度の劣る石綿セメント製の管が使用されているが、震災時等における飲料水の安定確保を図るため、より強度の高いダクタイル鋳鉄製導水管への取替えを進める。

概要  
導水管については、平成17年度当初、全体延長約23,490mに対して石綿セメント製導水管は、約20,500mが存在している。この耐震強度の劣る石綿セメント製導水管をより強度の高いダクタイル鋳鉄製導水管へ布設替える。  
なお、導水管の取替工事については、前年度まで経年管取替工事の一環として実施してきたが、早期に石綿セメント製導水管の布設替えを図るため、経年管取替工事と分離させ、事業最終年次を平成23年度から平成19年度に変更して実施する。

始期	平成17	年度から	終期	平成19	年度まで	当該事務に従事する実職員数	3.0 人または	時間
----	------	------	----	------	------	---------------	----------	----

今年度の改善・改革ポイント(前年度の評価結果等を踏まえて、継続事業の場合記入)  
事業の進捗については、道路管理者と速やかに協議し実施する。

今年度の活動指標(事業・活動の内容・量の指標)の説明  
計画延長を6,030mとする。

今年度のまちづくり指標(成果の指標)の説明  
計画事業を100%実施し、石綿セメント製導水管の残存率を44.5%とする。

他団体の先進的な取り組み事例・成果・参考実績値 (コスト比較を含む)

年度別明細	H16年度	H17年度	H18年度目標	H18年度達成
活動指標(事業・活動の内容・量)		実施延長 4,199m	計画延長 6,030m	実施延長 5,669.6m
まちづくり指標(成果指標) ①行政指標 ②協働指標		①残存率70.7%	①残存率44.5%	①残存率46.3%
予算額(千円)		295,515	446,160	446,160
決算額(千円)		291,348		413,859
執行率(%)		98.6%		92.8%

年間の実施スケジュール		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
当初計画	←					設計・施工時期							
										←	設計等次年度準備期間	→	
結果	←					設計・施工時期							
										←	設計等次年度準備期間	→	

当初計画変更の内容・理由等 (進捗状況評価で記載した理由以外に詳細な説明がある場合に記載)

事業NO.	701	事業名	導水管取替工事②	《重点管理事業》	水道部
-------	-----	-----	----------	----------	-----

### 《事業の中間評価》

中間評価時の課題と次年度の改善・改革方向	
本年度の施工予定箇所において水源井掘替工事との調整のため、次年度への事業延期を検討している工事もある。また、工事単価についても、石綿セメント管の廃材処分費の高騰により事業執行に一部支障をきたしている。 なお、深井戸の統廃合について都水道局と調整中であることから、当該深井戸に係る導水管4,926mを除き、残存率0%を目指す。	
中 間 評 価	<b>主管課中間評価(今年度で事業が終了する場合は記入不要)</b> コスト面 <b>3</b> 来年度は本年度よりコストが、減少する・維持・増加する(比較できない場合は理由のみ記載) (理由) 取替工事の実績延長は減するものの、石綿セメント管の廃材処分費の増により工事費は増加する。
	成果面 <b>1</b> 来年度は本年度より成果が、増加・維持・減少する(比較できない場合は理由のみ記載) (理由) 施工延長は本年度より減少するが、平成19年度で事業が完了し、残存率は0%となる。
	今後の委託・協働等(民間・嘱託臨職・市民による一部実施を含む)の可能性について <b>3</b> ある・ない・その他 (理由及び具体的内容) 設計については委託済である。
	<b>改善提案に対する事業評価審査会の意見・評価(又は平成18年度の取り組みに対する意見)</b> 評価 <b>1</b> 妥当である・改善の余地あり・抜本的な見直し必要 (特記意見)
	<b>改善提案に対する政策会議の意見・評価(又は平成18年度の取り組みに対する意見)</b> 重点的に取り組む課題とする。

### 《事業の事後評価》

主 管 課 後 評 価	進捗状況評価(当初計画に対して) <b>1</b> 当初計画通り(計画以上の進捗を含む) 若干遅れた・大きく遅れた
	成果に対する評価(活動指標・まちづくり指標に対して) <b>2</b> 大(目標の指標等を達成) 中・小又はなし
	効率性(事業の効率的実施)・経済性(予算のコスト削減等)に対する評価 <b>2</b> 高(特別の成果あり) 中・低
	総合評価(進捗状況、成果、効率性・経済性の評価を踏まえて)及び次年度の実施方針
	施工延長の減については、井戸の掘替えや三鷹台団地の建替えに伴うルートの調整により施工箇所の変更が生じ、延長が減となり残存率が46.3%となった。次年度は最終年となるため、引き続き効率的な設計及び施工を計画し実施していく。
審査会評価	進捗状況評価 <b>1</b> 成果に対する評価 <b>2</b> 効率性・経済性に対する評価 <b>2</b> (特記意見)

事業NO.	702	事業名	経年管(配水管)取替工事①	《重点管理事業》	水道部
-------	-----	-----	---------------	----------	-----

評価対象事業名	経年管(配水管)取替工事			部課名	水道部 工務課		
基本計画掲載	あり	○	なし	係名	工務係	内線	3436
計画事業名	経年管の解消			歳出科目	款	1.受託水道事業費	項
関連計画	水道法・東京都給水条例・同条例施行規則			補助区分	国	都	○
			体系	第4部 第3・3-(1)-②	目	1.水道管理費	目
					2.	2.配水費	
					事項	3.配水事業費	

事業の目的・概要 目的は対象(何を、誰を対象に)と意図(対象をどう状態にしたいのか)を、概要は実施手法、手順等を記入

目的 現在、飲料水を配水する配水管の一部に強度の劣る普通鑄鉄製配水管が布設されているが、震災時に飲料水を確保するため、より強度の高いダクタイル鑄鉄製配水管に管種変更を進める。

概要 配水管は、平成17年度当初、全体延長約319,200mに対し耐震強度の劣る昭和47年度以前に布設された普通鑄鉄製配水管は、約31,930mが存在している。この普通鑄鉄製配水管をより強度の高いダクタイル鑄鉄製配水管へ布設替える。  
 なお、前年度は導水管取替工事も経年管取替工事の一環として実施してきたが、効率的に事業を進めるため、導水管取替工事を配水管の布設替工事と分離させ、経年管の早期解消を図る。

始期 平成17 年度から 終期 平成23 年度まで 当該事務に従事する実職員数 2.0 人または 時間

今年度の改善・改革ポイント(前年度の評価結果等を踏まえて、継続事業の場合記入)

事業の進捗については、道路管理者と速やかに協議し実施する。

今年度の活動指標(事業・活動の内容・量の指標)の説明

計画延長4,010m

今年度のまちづくり指標(成果の指標)の説明

計画事業を100%実施し、経年管の残存率を7.4%とする。

他団体の先進的な取り組み事例・成果・参考実績値(コスト比較を含む)

年度別明細	H16年度	H17年度	H18年度目標	H18年度達成
活動指標(事業・活動の内容・量)		実施延長 4,249m	計画延長 4,010m	実施延長 3,899.0m
まちづくり指標(成果指標) ①行政指標 ②協働指標		①残存率8.6%	①残存率7.4%	①残存率7.4%
予算額(千円)		492,271	505,990	438,510
決算額(千円)		465,812		436,495
執行率(%)		94.6%		99.5%

年間の実施スケジュール		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
当初計画	←												
結果	←												

当初計画変更の内容・理由等(進捗状況評価で記載した理由以外に詳細な説明がある場合に記載)

事業NO.	702	事業名	経年管(配水管)取替工事②	《重点管理事業》	水道部
-------	-----	-----	---------------	----------	-----

## 《事業の中間評価》

中間評価時の課題と次年度の改善・改革方向	
経年管(配水管)については、幹線道路に多く埋設されているため、道路管理者の拡幅工事等に左右されたり、他企業との工程調整により計画どおり進捗を図ることが難しいことも多い。次年度についても、できるだけ早くからの調整及び工事への理解を求めて、計画どおりの事業執行を進めていく。	
主管課中間評価(今年度で事業が終了する場合は記入不要)	
コスト面	3 来年度は本年度よりコストが、減少する・維持・増加する(比較できない場合は理由のみ記載) (理由) 来年度から給水管の取付替工事費も当該事業で実施することとなったため単価は上昇するが、計画延長が減少するため、本年度と比較して事業費は減となる。
成果面	1 来年度は本年度より成果が、増加・維持・減少する(比較できない場合は理由のみ記載) (理由) 来年度は、導水管布設替事業の最終年度であり、当該事業への集中施工に伴い事業延長を延ばすことから、経年管(配水管)布設替え延長については、一定の縮減をするものである。しかしながら、市予算によらない都水道局直轄施工による経年管(配水管)布設替工事も数箇所完了することから、平成19年度末における残存率は6.6%となる見込みであり、前年度比で△0.8%となる。
今後の委託・協働等(民間・嘱託臨職・市民による一部実施を含む)の可能性について	3 ある・ない・その他 (理由及び具体的内容) 設計については、委託済である。
改善提案に対する事業評価審査会の意見・評価(又は平成18年度の取り組みに対する意見)	
評価	1 妥当である・改善の余地あり・抜本的な見直し必要 (特記意見)
改善提案に対する政策会議の意見・評価(又は平成18年度の取り組みに対する意見)	
評価を踏まえ、予算化に努める。 普通鑄鉄管が解消されても、ダクタイル鑄鉄管もいずれは経年管となることから長期的な展望を持って事業を推進すること。	

## 《事業の事後評価》

主管課事後評価	進捗状況評価(当初計画に対して)	1	当初計画通り(計画以上の進捗を含む) 若干遅れた・大きく遅れた				
	成果に対する評価(活動指標・まちづくり指標に対して)	1	大(目標の指標等を達成) 中・小又はなし				
	効率性(事業の効率的実施)・経済性(予算のコスト削減等)に対する評価	2	高(特別の成果あり) 中・低				
	総合評価(進捗状況、成果、効率性・経済性の評価を踏まえて)及び次年度の実施方針	当初予定に対して都道の道路工事中止や施工延長の変更に伴い、施工箇所等の変更はあったものの、おおむね順調に工事を進めることができ残存率7.4%を達成したが、他工事の影響により工期の延長を余儀なくされた。 なお、残存率が中間評価では6.6%の見込みであったが、新設管の延長が予定数量より少なく、経年管については予定延長より伸びたため、残存率が7.4%となった。					
	審査会評価	進捗状況評価	1	成果に対する評価	1	効率性・経済性に対する評価	2

事業NO.	703	事業名	水源井の掘り替え①	《重点管理事業》	水道部
-------	-----	-----	-----------	----------	-----

評価対象事業名	水源井の掘り替え			部課名	水道部 工務課		
基本計画掲載	あり	なし	体系	第4部 第3・1-(1)-①	係名	配水係	内線 3441
計画事業名	深井戸の適正な維持管理			歳出科目	款	1.受託水道事業費	項 2.建設改良費
関連計画				補助区分	国	都	○ 市単独

事業の目的・概要 目的は対象(何を、誰を対象に)と意図(対象をどういう状態にしたいのか)を、概要は実施手法、手順等を記入

目的 さく井後33年から48年が経過し、ケーシングの劣化によるスクリーン(集水口)の一部崩壊並びに経年による目詰まり等から揚水水位、揚水量が低下してきているため、集水面積を増やした新規さく井による増量揚水を図りながら、揚水量の乏しい水源井数本単位でまとめて廃井し、管理する水源井の数を減らしながら従前の揚水量を確保していく。

概要 老朽化が進む市内39箇所水源井の中から掘り替えが可能な敷地面積を有する水源を選出し、その井戸を中心に1km前後の範囲で3~4本まとめてグループ化し、従前の揚水量を基本に新たにさく井した井戸の揚水能力を見極めながら統廃合を実施していく。なお、グループ化に当たっては、井戸能力に低下が見られる水源井や水源用地が市有地などの借地となっている水源井を中心に廃止し、効率的な統廃合を図る。

始期 18 年度から 終期 19 年度まで 当該事務に従事する実職員数 2.0 人または 時間

今年度の改善・改革ポイント(前年度の評価結果等を踏まえて、継続事業の場合記入)

今年度の活動指標(事業・活動の内容・量の指標)の説明

井口1号水源、上連雀3号水源(2箇所)  
 (1) さく井(Φ350mm、深さ220m)・・・2箇所 (2) 水中ポンプモータ、ケーブル(37kw、3相×200V×38mm2)・・・2箇所  
 (3) 操作用配電盤設置・・・2面 (4) 既存水源井埋め戻し等・・・2箇所

今年度のまちづくり指標(成果の指標)の説明

自己水源水と都補給水との現状割合(おむね6割対4割)を維持するため掘り替え工事を行い、既存水源井の現状水位以上の回復による安定揚水を図る。掘り替え対象とする水源井1本における1時間当たりの揚水量は、現状では10m<sup>3</sup>であるが、掘り替えにより最大80m<sup>3</sup>の揚水が可能となることを目標とする。

他団体の先進的な取り組み事例・成果・参考実績値(コスト比較を含む)

年度別明細	H16年度	H17年度	H18年度目標	H18年度達成
活動指標(事業・活動の内容・量)			計画水源 井口1号水源 上連雀3号水源	実施水源 井口1号水源 上連雀3号水源
まちづくり指標(成果指標) ①行政指標 ②協働指標			①一本当たりの水源井における現状10m <sup>3</sup> /時間の揚水量を最大80m <sup>3</sup> /時間にす。	①井口1号水源50m <sup>3</sup> /時間、上連雀3号水源80m <sup>3</sup> /時間の最大揚水量を得た。
予算額(千円)			142,800	115,591
決算額(千円)				112,434
執行率(%)				97.3%

年間の実施スケジュール

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
当初計画				井口1号水源掘替工事(水中ポンプ等設置含む。)								
					上連雀3号水源掘替工事(水中ポンプ等設置含む。)							
結果				井口1号水源掘替工事(水中ポンプ等設置含む。)								
					上連雀3号水源掘替工事(水中ポンプ等設置含む。)							

当初計画変更の内容・理由等(進捗状況評価で記載した理由以外に詳細な説明がある場合に記載)

事業NO. 703	事業名	水源井の掘り替え②	《重点管理事業》	水道部
-----------	-----	-----------	----------	-----

### 《事業の中間評価》

中間評価時の課題と次年度の改善・改革方向	
さく井中に地下水の湧水量、砂、マンガン等の流入状況を把握し、適正揚水量の確認による水中ポンプ選定まで時間がかかり、十分な工期設定が必要であるため、次年度においてもこの点に留意する。	
主管課中間評価(今年度で事業が終了する場合は記入不要)	
コスト面	3 来年度は本年度よりコストが、減少する・維持・増加する(比較できない場合は理由のみ記載) (理由) 工事箇所が平成18年度は2箇所だったが、平成19年度は3箇所に増えるため
成果面	1 来年度は本年度より成果が、増加・維持・減少する(比較できない場合は理由のみ記載) (理由) 40年以上が経過し、経年劣化したケーシング鋼管がステンレス管に替わることで、維持管理が容易になる。また、既設水源井と深さ、帯水層は同等だが井戸径が50mm大きくなるので、揚水量の増加が見込める。
今後の委託・協働等(民間・嘱託臨職・市民による一部実施を含む)の可能性について	2 ある・ない・その他 (理由及び具体的内容) 老朽化した井戸それぞれの特徴を踏まえて水源井の統廃合を実施していくため委託化が困難
改善提案に対する事業評価審査会の意見・評価(又は平成18年度の取り組みに対する意見)	
評価	1 妥当である・改善の余地あり・抜本的な見直し必要 (特記意見)
改善提案に対する政策会議の意見・評価(又は平成18年度の取り組みに対する意見)	
重点的に取り組む課題とする。 狭隘道路に面しているような場所で工事をする場合セットバック等配慮すること。	

### 《事業の事後評価》

主管課事後評価	進捗状況評価(当初計画に対して)	1	当初計画通り(計画以上の進捗を含む) 若干遅れた・大きく遅れた			
	成果に対する評価(活動指標・まちづくり指標に対して)	1	大(目標の指標等を達成) 中・小又はなし			
	効率性(事業の効率的実施)・経済性(予算のコスト削減等)に対する評価	1	高(特別の成果あり) 中・低			
	総合評価(進捗状況、成果、効率性・経済性の評価を踏まえて)及び次年度の実施方針					
	進捗状況としては、住宅街隣接のため騒音・振動等を考慮してロータリー式掘削機で深さ220mのさく井を行ったが、予想以上に硬い礫層、粘土層、砂礫層等が幾重にもあり工期の遅れが生じたが、ほぼ計画通りに工事を行うことができた。成果については、自然水位、揚水水位が旧井戸より大幅に上昇したことで安定揚水が見込めるので、1年間の経過を見ながら当初の計画どおりに井戸の統廃合を実施したい。効率性・経済性については、今回の掘り替えにより井戸の若返りと十分な安定水量が確保できたため、出力の小さい水中ポンプ・モータの設置での対応が可能となり、当初計画よりもコスト削減を図ることができた。19年度においても、3箇所の水源で実施する。					
審査会評価	進捗状況評価	1	成果に対する評価	1	効率性・経済性に対する評価	1
(特記意見) 水源井の掘り替えに伴う統廃合及び適正な維持管理など、2年間の成果を評価・検証し、今後の取組について検討していく必要がある。						

事業NO.	704	事業名	深井戸の適正な維持管理①		〈部内管理事業〉	水道部
-------	-----	-----	--------------	--	----------	-----

評価対象 事業名	深井戸の適正な維持管理			部課名	水道部 工務課		
基本計画掲載	あり	○	なし	係名	配水係	内線	3441
計画事業名	深井戸の適正な維持管理			歳出科目	款	1.受託水道事業費	項
関連計画				受託水道事業特別会計	事項	3.浄水事業費 1.原浄水施設事業費	
				補助区分	国	都	○
						市単独	

事業の目的・概要 目的は対象(何を、誰を対象に)と意図(対象をどういう状態にしたいのか)を、概要は実施手法、手順等を記入

目的 三鷹市の水道水の約6割に当たる自己水源である深井戸の安定揚水量を維持するため、市内39箇所の水源井内の活性化を図るとともに各々水源井の適正揚水量を確認し、水中ポンプ取替による地下水を主とする水道水の安定供給を図り、過剰揚水による地盤沈下等の環境問題が起こらないようにする。

概要 さく井後33年から48年が経過し、劣化した井内スクリーン(集水口)のサビ等による目詰まりを解消するため、各々井戸の現状に即した工法(ブラッシング、スワビング、バックウオッシング等)による更生工事で揚水水位の回復を図り、それぞれの水源井の適正揚水量を確認しながら水中ポンプモータを選定し、順次取り替えを行う。

始期 年度から 終期 23 年度まで 当該事務に従事する実職員数 1.0 人または 時間

今年度の改善・改革ポイント(前年度の評価結果等を踏まえて、継続事業の場合記入)

水源井39箇所の水中ポンプ取り替え周期と全水源から選出された更生工事周期及び掘り替えに伴う能力の低下した水源井の統廃合を勘案しながら、効率的かつ効果的な工事の実施を図る。

今年度の活動指標(事業・活動の内容・量の指標)の説明

- (1) ブラッシング、スワビング等による更生3箇所
- (2) 更生工事に合わせた水中ポンプモータ取替2箇所及びオーバーホール1箇所
- (3) 基本周期による水中ポンプモータ取替1箇所

今年度のまちづくり指標(成果の指標)の説明

自己水源水と都補給水との現状割合(おむね6割対4割)を維持するため更生工事に伴い揚水水位を回復し、水中ポンプモータ取替による安定揚水を図る。

他団体の先進的な取り組み事例・成果・参考実績値(コスト比較を含む)

年度別明細	H16年度	H17年度	H18年度目標	H18年度達成
活動指標 (事業・活動の内容・量)	実施水源 上連雀2号水源 三鷹新川3号水源 三鷹新川7号水源 牟礼2号水源	実施水源 三鷹北野1号水源 三鷹北野3号水源 三鷹北野6号水源 三鷹新川3号水源	計画水源 上連雀1号水源 野崎1号水源 三鷹新川5号水源 三鷹中原1号水源	実施水源 三鷹中原3号水源 野崎1号水源 三鷹新川5号水源 三鷹中原1号水源
まちづくり 指標(成果 指標) ①行政指標 ②協働指標			①計画水源井4箇所の揚水量維持	①計画水源井4箇所の揚水量維持(1箇所は予定を変更)
予算額(千円)	35,669	33,600	31,332	31,332
決算額(千円)	35,669	28,140		24,885
執行率(%)	100.0%	83.8%		79.4%

年間の実施スケジュール	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
当初計画	野崎1号水源外1箇所更生工事			上連雀1号水源更生工事			野崎1号水源外2箇所水中ポンプ取替工事					
変更計画	野崎1号水源外1箇所更生工事			上連雀1号水源更生工事			野崎1号水源外2箇所水中ポンプ取替工事			中原3号水源緊急更生工事		

当初計画変更の内容・理由等  
年度当初に三鷹中原3号水源の水中ポンプが故障し、水中ポンプの取替え前に緊急で更生工事を実施したため、予定水源の実施時期が変更になった。

事業NO. 704	事業名	深井戸の適正な維持管理②	〈部内管理事業〉	水道部
-----------	-----	--------------	----------	-----

### 《事業の中間評価》

中間評価時の課題と次年度の改善・改革方向	
<p>経年により老朽化していく井戸ケーシング、スクリーンの維持管理及び適正揚水量による自己水を確保する。          多摩水道改革推進本部における三多摩地区深井戸掘替え実施計画と整合性を図りながら、工務課内で導水管取替工事等を含めた情報の共有化を進め、維持管理の計画的な取組を検討する。</p>	
主管課中間評価(今年度で事業が終了する場合は記入不要)	
コスト面	2 来年度は本年度よりコストが、 減少する・ 維持・ 増加する(比較できない場合は理由のみ記載) (理由) 工事箇所が6箇所から2箇所になるため
成果面	2 来年度は本年度より成果が、 増加・ 維持・ 減少する(比較できない場合は理由のみ記載) (理由) さく井後33~48年が経過した水源井であるが、更生工事により安定揚水を維持することが可能となる。
今後の委託・協働等(民間・嘱託臨職・市民による一部実施を含む)の可能性について	2 ある・ ない・ その他 (理由及び具体的内容) 老朽化した井戸それぞれの特徴を把握したうえで、他の事業との連携など適正かつ効率的な事業実施が必要のため委託化には向かない。
改善提案に対する事業評価審査会の意見・評価(又は平成18年度の取り組みに対する意見)	
評価	1 妥当である・ 改善の余地あり・ 抜本的な見直し必要 (特記意見)
改善提案に対する政策会議の意見・評価(又は平成18年度の取り組みに対する意見)	
評価を踏まえ、予算化に努める。	

### 《事業の事後評価》

事業 事後 評価	進捗状況評価(当初計画に対して)	1	当初計画通り(計画以上の進捗を含む) 若干遅れた・ 大きく遅れた
	成果に対する評価(活動指標・まちづくり指標に対して)	1	大(目標の指標等を達成) 中・ 小又はなし
	効率性(事業の効率的実施)・経済性(予算のコスト削減等)に対する評価	2	高(特別の成果あり) 中・ 低
	総合評価(進捗状況、成果、効率性・経済性の評価を踏まえて)及び次年度の実施方針	<p>進捗状況としては、水中ポンプの故障により1箇所予定を変更したことにより、工期に若干の遅れが生じたが、当初計画どおり4箇所の水源井について更生工事等を実施した。成果としては、故障により急ぎ実施した中原3号水源を含めた更生工事により、自然水位、揚水水位が回復し、安定揚水が可能になり、当初の成果目標を達成することができた。また、各々水源井に適した材質、能力の水中ポンプ・モータを選定、設置したことで余力ある安定揚水の維持を図ることができた。今後も、井戸の掘り替えによる統廃合と合わせて、安定的に揚水を確保し、地下水を主とする水道水の安定供給を図っていく。</p>	
	審査会評価	進捗状況評価 1	成果に対する評価 1

事業NO.	705	事業名	配水管新設工事①	〈部内管理事業〉	水道部
-------	-----	-----	----------	----------	-----

評価対象事業名	配水管新設工事			部課名	水道部 工務課					
基本計画掲載	あり	○	なし	係名	工務係	内線	3436			
計画事業名	配水管網の整備			歳出科目	款	1.受託水道事業費	項	2.建設改良費	目	2.配水施設費
関連計画	水道法・東京都給水条例・同条例施行規則			補助区分	国	都	○	市単独		

事業の目的・概要 目的は対象(何を、誰を対象に)と意図(対象をどう状態にしたいのか)を、概要は実施手法、手順等を記入

目的 市民のために、より効率的な配水管網整備を目的とし、配水管の新設工事を実施する。

概要 経年管布設替工事やその他の水道工事にあわせ、近接した公道や私道に配水管を布設しループ化を進める。また、都市計画事業等の推挙にあわせ、配水管の新設工事を実施する。

始期 単年度 年度から 終期 年度まで 当該事務に従事する実職員数 1.0 人または 時間

今年度の改善・改革ポイント(前年度の評価結果等を踏まえて、継続事業の場合記入)  
前年度に引き続き、事業の効率化と市民サービスの向上に向け配水管網の整備を進める。

今年度の活動指標(事業・活動の内容・量の指標)の説明  
計画延長を2,430mとする。

今年度のまちづくり指標(成果の指標)の説明  
より効率的な配水管網の整備で年間計画100%実施を目指し、市民サービスの向上を図る。

他団体の先進的な取り組み事例・成果・参考実績値 (コスト比較を含む)

年度別明細	H 1 6年度	H 1 7年度	H 1 8年度目標	H 1 8年度達成
活動指標 (事業・活動の内容・量)	実施延長 3,628.4m	実施延長 2,406m	計画延長 2,430m	実施延長 2,334.2m
まちづくり 指標(成果 指標) ①行政指標 ②協働指標	①より効率的な配水管網の整備が図られた。	①より効率的な配水管網の整備が図られた。	①年度計画の100%実施	①より効率的な配水管網の整備が図られた。
予算額(千円)	229,475	157,145	128,240	128,240
決算額(千円)	177,099	152,779		126,455
執行率(%)	77.2%	97.2%		98.6%

年間の実施スケジュール		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
当初計画					設計・施工期間					設計等次年度準備期間			
結果					設計・施工期間					設計等次年度準備期間			

当初計画変更の内容・理由等 (進捗状況評価で記載した理由以外に詳細な説明がある場合に記載)

事業NO.	705	事業名	配水管新設工事②	(部内管理事業)	水道部
-------	-----	-----	----------	----------	-----

### 《事業の中間評価》

中間評価時の課題と次年度の改善・改革方向	
経年管や導水管等の布設替工事と連動して実施しているが、次年度から配水管未布設路線への配水管網の整備を図るため、道路管理者や私道の地権者と早めに協議し実施していく。	
主管課中間評価(今年度で事業が終了する場合は記入不要)	
コスト面	3 来年度は本年度よりコストが、減少する・維持・増加する(比較できない場合は理由のみ記載) (理由) 来年度から給水管の取付替工事費も当該事業で実施することとなったため単価が上昇し、また、計画延長も伸びることから、今年度と比較して事業費は増加する。
成果面	1 来年度は本年度より成果が、増加・維持・減少する(比較できない場合は理由のみ記載) (理由) 今年度までは経年管等の布設替えに伴う新設管の布設であったが、来年度から配水管網の整備を目的とした配水管新設工事にも取り組む。
今後の委託・協働等(民間・嘱託臨職・市民による一部実施を含む)の可能性について	3 ある・ない・その他 (理由及び具体的内容) 設計については委託済
改善提案に対する政策会議の意見・評価(又は平成18年度の取り組みに対する意見)	
評価	1 妥当である・改善の余地あり・抜本的な見直し必要 (特記意見)
改善提案に対する政策会議の意見・評価(又は平成18年度の取り組みに対する意見)	
評価を踏まえ、予算化に努める。	

### 《事業の事後評価》

事後評価	進捗状況評価(当初計画に対して)	1	当初計画通り(計画以上の進捗を含む)	若干遅れた・大きく遅れた			
	成果に対する評価(活動指標・まちづくり指標に対して)	2	大(目標の指標等を達成)	中・小又はなし			
	効率性(事業の効率的実施)・経済性(予算のコスト削減等)に対する評価	2	高(特別の成果あり)	中・低			
	総合評価(進捗状況、成果、効率性・経済性の評価を踏まえて)及び次年度の実施方針						
	<p>導水管及び配水管の布設替えや道路工事に付随して工事を実施しているため、施工箇所の変更により新設管の施工箇所が変更になった。このことにより、施工延長は減となったが生活道路での給水管の整理や配水管のループ化が進み、効率的な管網整備を図ることができた。</p> <p>次年度は、道路管理者や関係機関と十分な調整を図り計画的・効率的な事業を実施していく。</p>						
審査会評価	進捗状況評価	1	成果に対する評価	2	効率性・経済性に対する評価	2	(特記意見)